

第5回原野谷学園新たな学校づくり検討委員会 概要

日時	令和6年3月12日(火) PM7:00～8:40
場所	原野谷中学校 図書室
出席者	委員 19名 事務局 教育政策課長、学校再編室長、学校再編室主査、学校再編室主事、地域計画建築研究所2名

内容

■：委員会での検討内容

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項

(1) 学校の設置場所について

【報告事項】

①保護者説明会の開催報告

■ 委員意見：

- ・ 具体的な予算を含めて保護者に説明するべきだったのではないかと。コストへの意識を今以上をもって市民に説明するようにしてほしい。
- ・ 保護者だけでなくまちづくりに関わっている役員にも意見を聞いてほしい。建設候補地の結論が出る前に、直接意見を聞いてもらう場を作ってほしい。

②スクールバス運行ルート試案について

■ 委員意見：

- ・ 原田小学校の統合が令和7年に迫っているため、緩和検討について早めに結論を出してほしい。
- ・ 小学生が4kmを歩くと1時間以上かかることになると思う。具体的に子どもたちが通学するイメージを持って緩和の検討をしてほしい。
- ・ 小学生4kmという規定は学校の適正配置に関わることで昔の基準。国からの補助が出ない等の問題もあると思うが、是非掛川方式で前向きに進めてほしい。

■ 委員質問：

- ・ 小学生は4kmまで徒歩、中学生は2kmから自転車となると、例えば兄弟で通学方法が異なる場合があるということか。
→回答：その可能性はある。安全面・発達段階を考慮して通学方法を検討したい。

【協議事項】

➤ 建設場所候補地の選定方法

■ 事務局提案の「総合評価方式」で選定することで決定。（委員全員賛成）

評価指標の内容・配点・得点合算方法について検討内容を反映し、修正版を委員送付。その後返送された評価シートを事務局で集計し、次回検討委員会で結果報告予定。

■ 委員質問：

- ・ この評価は検討委員会の委員のみで行うのか。
→回答：長い期間様々な情報をもとに検討いただいた委員に判断いただきたい。
- ・ 役員として背負っているものが違う。委員の1票に重みづけはできないか。
→回答：委員全員が様々な方の意見を背負って参加いただいていると思っており、優劣はないものと考えているため、どの委員も1票として選考してもらいたい。

- ・ 委員の得点はどのように集計するのか。
→回答：①すべての点数を合計して得点の高い候補地を採用する
②指標項目ごとに1位をとったものが多い候補地を採用する
③各委員の評価で1番得点の高い候補地を1票として20票で集計する
上記のような方法が考えられると思う。

■ 委員意見：

- ・ 教育に関することは単純に数だけで決定するものではないと思う。まちづくりも大切だが、教育の視点を忘れないでほしい。
- ・ 交通利便性に配点15点は高すぎる。目の前の交通の便だけでなく教育的な視点を入れたい。道路幅員の5点は高すぎる。
- ・ 迅速性の5点は低すぎる。原野谷中は古いので災害時の心配もある。
- ・ 迅速性、周辺環境は配点を上げてほしい。子どもたちが主役なので落ち着いて学習できる環境は重要と感じる。説明会に参加し、保護者も令和10年度の開校を楽しみにしていると感じた。夢と希望が持てるように迅速性も重視したい。
- ・ 敷地条件の配点を増やしてほしい。最近はオープン型の教室等広さを確保する学校が多い。学校運営の視点で広さは重視したい。
- ・ まちづくりの視点についても配点を上げてほしい。学校は地域の核になる重要な施設と感じている。
- ・ 点数合計欄の下でいいが、自由記述欄を設けてほしい。客観的に評価して自分が思っている順位にならなかったときに、配慮してほしい事項等を記入する欄があるといい。

(2) 「原野谷学園新たな学校づくり検討委員会だより」第5号について

■ 委員意見：

- ・ 公共施設が4つ挙げられているが、図書室や小さなホール等の地域開放について、検討の余地がないように感じるため、地域開放の可能性のある旨を但し書き等で追記してほしい。

4 今後の予定について

5 閉 会